

令和7年度 江東区立大島幼稚園 自己評価表

園長名 藤澤 亜希

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域1		健康で心豊かな幼児の育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	・文化の違いによる生活習慣の違いを理解し、各家庭との連携を密にしながら、幼児の生活習慣の確立を図る。	78	・保護者アンケートの「お子さんは基本的な生活習慣を身に付け、自分のことは自分で行おうとしている」の肯定率を100%にする。	100	A
2	・幼児の実態把握を丁寧に行い、幼児の発達や育ってきた背景、今の実態に即した活動の精選や指導の工夫を図る。	85	・保護者アンケートの「お子さんは園生活を楽しみ、自信をもって遊びや活動に取り組んでいる」の肯定率を100%にする。	100	A
3	・幼児が「やってみたい」と思えるような魅力的な運動遊びの物的環境を工夫するとともに、魅力的なモデルとしての人的環境を整える。	82	・保護者アンケートの「お子さんは様々な環境に関わり、体を動かすことを楽しんでいる」の肯定率を100%にする。	100	A
4	・一人一人の思いを丁寧に受け止め、幼児が自分の思いが言葉やしぐさなどにより相手に伝わる嬉しさや相手の考えを知ることができる喜びを感じられるような指導の工夫を図る。	82	・保護者アンケートの「お子さんは自分の思いを言葉やしぐさで伝えたり、相手の話に関心をもって聞いたりしている」の肯定率を100%にする。	100	A

<結果についての分析と改善策>

分析

- 文化の違いについて教員自身が十分に理解できない面があった。生活習慣について繰り返し指導したことで身に付いてきてはいるが、個人差もあり十分とは言えない。
- 年度の途中でホールや大型積み木の使い方を見直したことで、友達同士の関わりや遊び方に変容が見られた。改めて実態に即した環境や援助の工夫の必要性を感じられた。
- 体を動かしたくなる環境づくりに重点を置いて取り組んだことで、幼児がやってみたい、やったらできた、といった気持ちを育むことができた。
- 母語が違う幼児一人一人の思いを受け止めつつ、それを仲介することが困難であった。また、幼児同士のやり取りは難しいと考え、幼児自らが伝えようとするのを待てない部分もあった。

改善策

- 個人差、親子関係、育ってきた環境、文化などを考慮し、より一人一人に即した工夫を考える。
- 早い段階で実態を共有し、環境の見直しを進める。
- 日本語の理解度が高まってきている。幼児の力を信じ、幼児自身が考えられる言葉掛けの工夫をする。

重点領域2		教師の指導力の向上			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	・一人一人のよさや「今」の実態を丁寧にとらえ、適切な指導を行うために、日々の打ち合わせに加え、学年会や年2回のSCとの園内委員会を通し、より幼児理解を深め、保育を行う。	90	・保護者アンケートの「幼稚園は幼児一人一人のよさを認め、力を発揮できるような教育活動を進めている」の肯定率を100%にする。	100	A
2	・自己の課題やチャレンジしたいことを自己申告書に記し、具体的な方策を立て、改善や達成に向けて努める。	80	・保護者アンケート目標の達成を100%にする。	100	A

<様式1>

3	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育スタンダードや育みたい3つの資質・能力への理解を深め、幼児が様々に経験を重ねることができているのかを振り返り、次へ活かす保育を行う。 	82	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「お子さんは様々な教材や活動に積極的に関わり、経験の幅を広げている」の肯定率を100%にする。 	100	A
<p><結果についての分析と改善策></p> <p>分析</p> <p>○SCを交えた園内委員会では、教員とは違う角度からの見方を示唆してもらえたことで、より幼児理解を深めることができた。</p> <p>○教員一人一人の課題に向けて、評価が割れた。自らの努力で改善できる課題と園の置かれている状況によるものとあるため、評価が困難であった。</p> <p>○日頃から教員間で振り返りの時間を設け、幼児の育ちについては共有できているが、日常の保育の中で育まれていることと、就学前教育スタンダード、育みたい資質、能力とのつながりについて、共有する作業が足りていなかった。</p> <p>改善策</p> <p>○教員の数が少なくなるため、SCや学習支援員など、様々な立場の人と幼児の実態について話し合い、さらに幼児理解を深める。</p> <p>○教員一人一人の課題を共有し、具体的な手立てを考えることで、達成できるようにする。</p> <p>○就学前教育スタンダード、育みたい資質、能力と幼児の実態を照らし合わせながら、振り返る機会を設定する。</p>					

重点領域3		子育て支援の充実・地域との連携			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化に触れることのできる行事や保護者のもつ教育力や得意なことを生かした行事の工夫を行い、保護者も幼児も楽しんで参加できるようにする。 	88	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「幼稚園は保護者の力を生かした教育活動を行っている」の肯定率を100%にする。 	100	A
2	<ul style="list-style-type: none"> ・配布物は言葉を少なく、分かりやすくするとともに、3か国語のものを用意し、誰が見ても分かるようにする。 ・HP、インスタグラムを週1回更新するとともに、写真掲示を通して保育内容の発信を行う。 	87	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「幼稚園からの教育内容に関する発信は園生活の様子や幼児の成長が分かりやすい」の肯定率を100%にする。 	100	A
3	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に保育園、近隣幼稚園や小学校との交流計画を立て、年間を通して交流することで、親しみや憧れの気持ちが育まれるようにする。 ・江東区連携教育の日に幼児の姿を見てもらう機会を生かし、幼児から中学生までを通した近隣のこどもたちの学びについて話し合い、互いの教育への理解を深め、こどもたちの学びにつなげる。 	78	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「お子さんは近隣保育園や小中学校との交流を楽しみ、小中学生へのあこがれの気持ちをもっている」の肯定率を100%にする。 	93	A
4	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子登園を年間10回実施し、内容の充実を図り、地域の子育て支援を行う。 ・預かり保育（にこにこたいむ）を年25回実施し、保護者のリフレッシュにつなげる。 	90	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで「にこにこたいむは、保護者のリフレッシュにつながっている」の肯定率を100%にする。 	100	A

<様式1>

<p><結果についての分析と改善策></p> <p>分析</p> <p>○保護者が参加し、教育力を生かせる取組を行ったことで、教師は保護者のよさを知ることができ、保護者は教師の指導の意図や配慮などを知ることができ、保護者との関係がより深まった。</p> <p>○動画を保護者に見せて幼児の学びについて降園時等に伝える方法は、時間がかからず理解を深めやすく有効な方法だった。</p> <p>○小中学校との交流は、明確なねらいをもって相手校と一歩踏み込んだ連携をすることが必要。例年通りの日程で計画していたため、親しみの気持ちはもてたが、憧れまではもてないでいるのが現状。</p> <p>○未就園児の会については、閉園が近いということもあり、参加者を集めることが困難であった。</p> <p>改善策</p> <p>○保護者の参加行事の方法や内容は、保護者の実態を踏まえて即したものにしていく。</p> <p>○保育園、幼稚園交流については、年度当初に具体的な計画を立てることで、充実した活動となるようにする。</p> <p>○保育園との交流は、園庭を開放するなども含めて考える。</p> <p>○小学校との交流は、小学校がほかの保育園と交流する機会に加えてもらえないか相談する。</p> <p>○未就園児の会は今年度の実態を踏まえ、方法、内容、回数等を考える。</p>
--

重点領域4		安心・安全な幼稚園づくりの推進			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・毎月の避難訓練を通し、緊急時の対応について共通理解を図り、全教職員の対応力を高める。	100	・保護者アンケートの「幼稚園は緊急時に幼児の安全を守る環境を整えている」の肯定率を100%にする。	100	A
2	・毎月の安全指導・避難訓練を通し幼児が安全に対する意識を高めたり、緊急時の行動を理解したりし、自分の身は自分で守れるような指導を行う。	100	・保護者アンケートの「お子さんは安全な遊び方や緊急時の行動の仕方が分かり、身につけている」の肯定率を100%にする。	100	A
3	・毎月の安全点検に加え、日々の点検において異常箇所や危険箇所が見つかった場合は、所管課と連携を図り、速やかに対処し、安全な環境を整える。 ・確実な施錠を行い、安心して生活を送れる環境を整える。	100	・保護者アンケートの「幼稚園は安心・安全な教育環境を整えている」の肯定率を100%にする。	100	A

<p><結果についての分析と改善策></p> <p>分析</p> <p>○幼児の意識を高めることはできたが、文化の違いから、保護者の安全教育への理解が不十分であった。</p> <p>改善策</p> <p>○幼児がより理解できるよう、視覚的教材を使い、自分で考える機会をもてるようにする。</p> <p>○家庭への安全教育を幼児と同様の内容で行うことや、時には親子で一緒に安全指導をするなどの工夫をする。</p>

- 【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
- A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
 - B：50%以上90%未満
 - C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）